

【ミズベリング・プロジェクト事務局 資料より】



詳しくはこちらを⇒

<http://mizbering.jp/>



～ ミズベリング、はじめよう。 ～

令和3年6月29日

国土交通省 中部地方整備局 樫野 誠

はじめる前に・・・

受賞対象名【ミズベリング・プロジェクト】



GOOD DESIGN AWARD 2018
グッドデザイン金賞

やりました！グッドデザイン金賞
全国のミズベリストの皆さん、
おめでとうございます！

審査委員の評価 (<https://www.g-mark.org/award/describe/48255?token=ct9WEILMHE>抜粋)

法制度の整備がすぐに実空間の変化に繋がるわけではない。だからこそ、それぞれの地域のステイクホルダーが連携し・アイデアを出し・実践することが大事になる。本プロジェクトは、水辺に親しみ使いこなしたいユーザたちの心に火を付け、日本各地の水辺に変化をもたらすきっかけをつくった。水辺と人・まちとの関係を継続的なものにするために不可欠な官民の人材育成につながっていることも評価したい。

①かつて・・・



江戸期の日本橋川-1

賑わい、
まちとの融合



江戸期の日本橋川-2

②近年・・・



→建物が河川から背を向けている



→水辺に近づけず、まちと切り離された空間となっている。

**寂しさ、
まちとの隔離**

③最近・・・



京橋川(広島県)

一方で・・・
人がいない



→都市の威容を備え、河畔空間が整備されるも水辺にかつての賑わいはみられない。

水辺の活用
オープンカフェ

④これから！

水辺とまちの賑わいの復活

企業

取組の再構築
三位一体の強化

市民

行政



水辺とまちの未来創造プロジェクト

水辺を「**つくる**」だけではなく
「**育てる**」ための3つのコンセプト

- まちにある川や水辺空間の**賢い利用**
- 民間企業等の**民間活力の積極的な参画**
- 市民や企業を巻き込んだ

ソーシャルデザイン

プロジェクト推進のための
「きっかけワード」みたいなものが・・・



MIZBERING

ミズベリング

水辺 + リング (輪)

+

R + ING (進行形)

(リノベーション)



ミズベリング・プロジェクトとは、

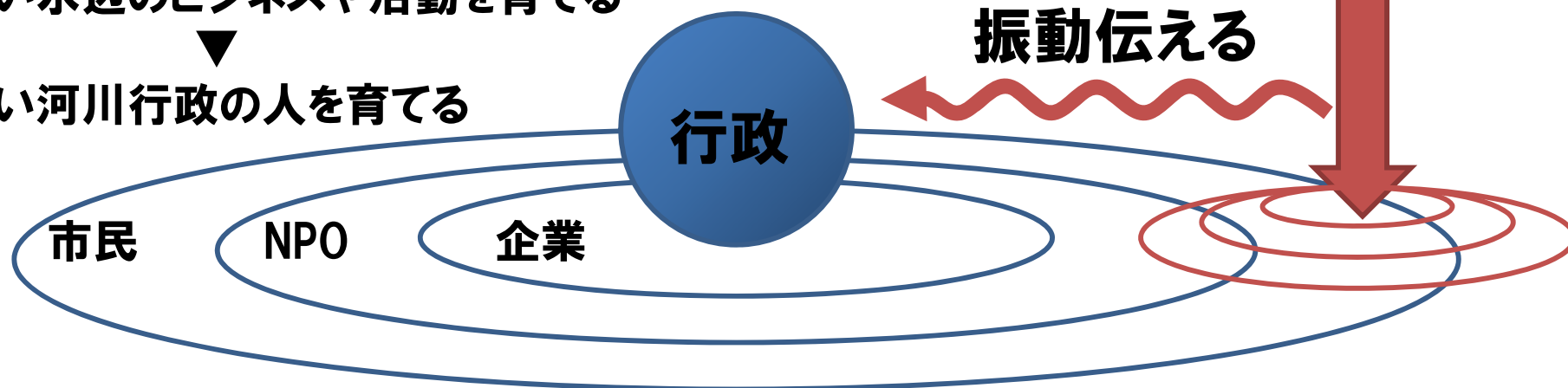
- かつて、川には大小の船が数多く行き交い、水辺の賑わいは浮世絵などでも伺えるほどで、人と暮らしの賑わいが水辺と共に繁栄してきました。
- 近年は、水害から守る、高度成長のための水利用という目的のため、川は別もの扱いされ、堤防は大きなコンクリート壁を設け、川に背を向けたまちづくりが進められてきました。
- このような状況の中、河川法改正により「河川環境の整備と保全」という目的が追加され、多自然川づくり基本指針により「まちの景観、歴史、文化に配慮した川づくり」の取組が規定された。
- また、「かわまちづくり支援制度」の創設や河川敷地占用許可準則の改正により、良好なまちと水辺が融合した空間が形成され、背を向けていた「まち」が賑わいを取り戻しつつある。
- その一方で、まちの景観、歴史、文化に合わない川づくり、人に活用されない川づくりも未だある。
- 企業・市民・行政間の連携不足や許可等の規制緩和も周知不足のため、まちと一体となった川づくりが停滞気味となっている。
- そこで、この国の「水辺とまち」に対する社会的関心を高め、市民・企業・行政が三位一体となり水辺をソーシャルデザインし、かつての水辺の賑わいを取り戻すために、ミズベリング・プロジェクトを立ち上げるものである。

ミズベリング（MIZBERING）とは、

- 「水辺+RING（リング・輪）」の造語であり、「水辺+R（リノベーション・再生）+ING（進行形）」の造語でもある。
- すなわち、水辺に興味を持つ市民や企業、そして行政が三位一体（輪）となして、その輪が各地域、各機関に広がり、また大きな輪となすことを意味している。
- また、かつての水辺の賑わいを取り戻すべく（再生）、多くの人を巻き込み、語り合い、水辺とまちが一体となった美しい景観を創造し続けるためのムーブメントをここから起こす（進行形）ことを意味する。

外から中に作戦

- ・水辺に新しい関心を集める
- ・水辺に新しいアイデアを育てる
- ・新しい水辺の関係を作る
- ・新しい水辺のビジネスや活動を育てる
- ・新しい河川行政の人を育てる

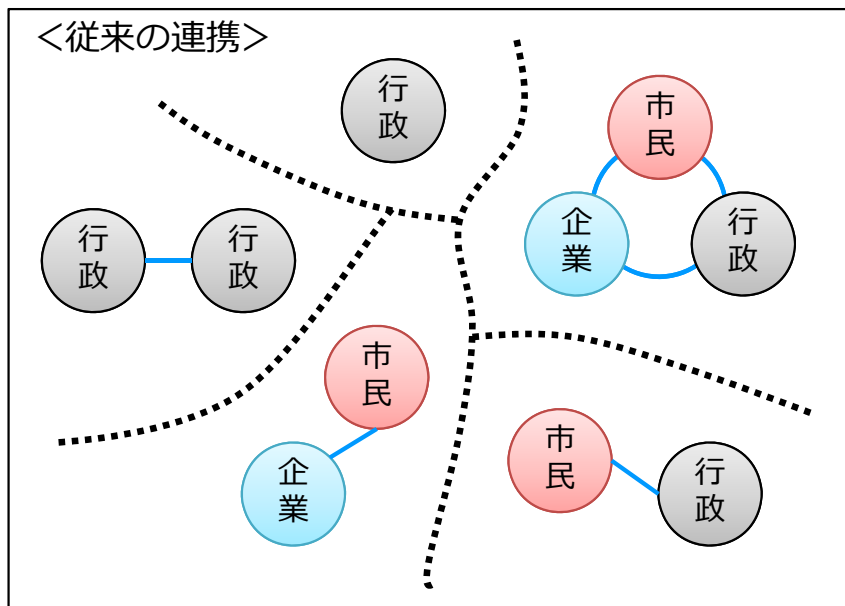


ここから始める （私が始める）

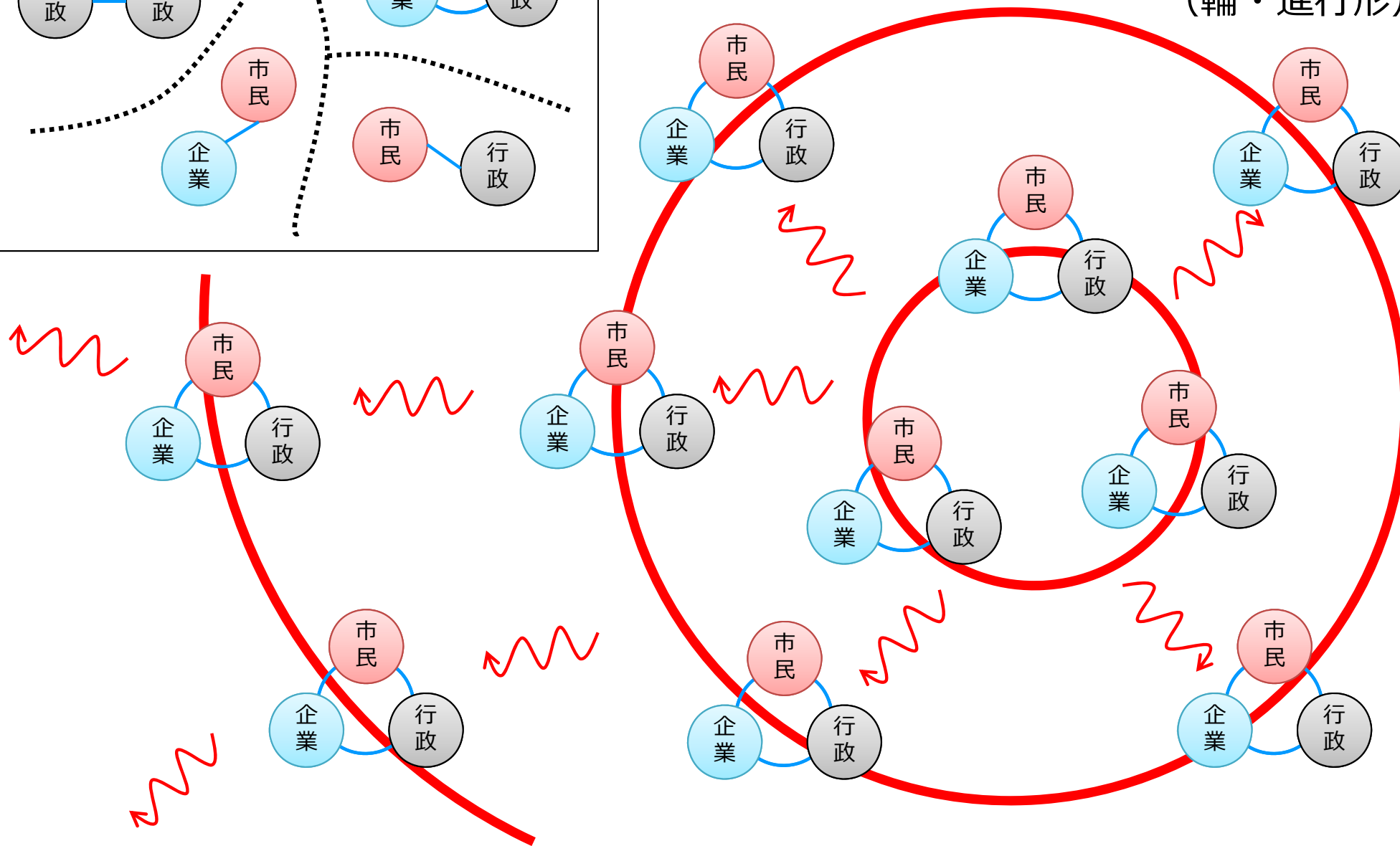
- ・水辺を楽しむ人
- ・水辺で街を変える人
- ・水辺で新しいビジネスを作る人 を増やす



MIZBERING
ミズベリング



<ミズベリング・プロジェクトが目指す連携>
(輪・進行形)



水辺のアクションをみんなで起こせば、
日本のまちはもっともっと輝くはずだ。

ミズベリング、5つのアクション

① つなぐ

② かたろう

③ ためそう

④ つくろう

⑤ 育てよう



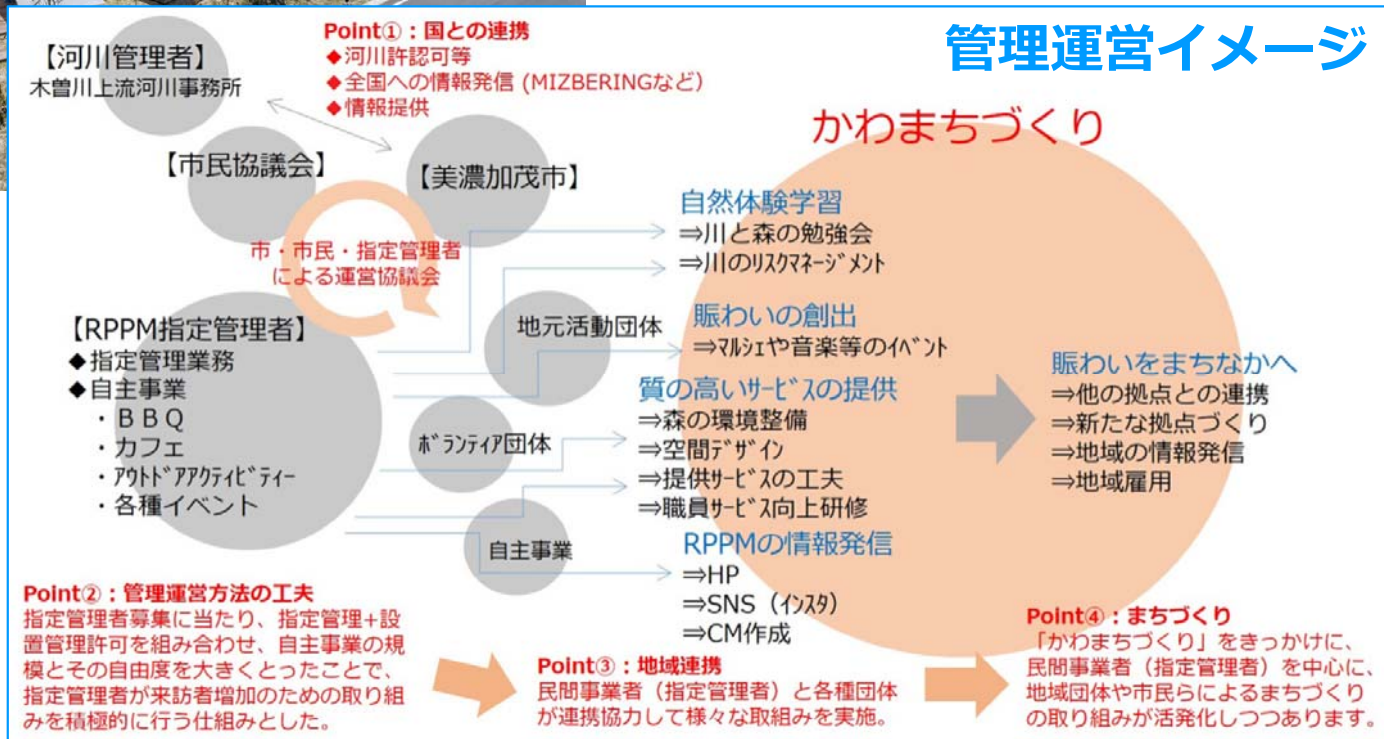




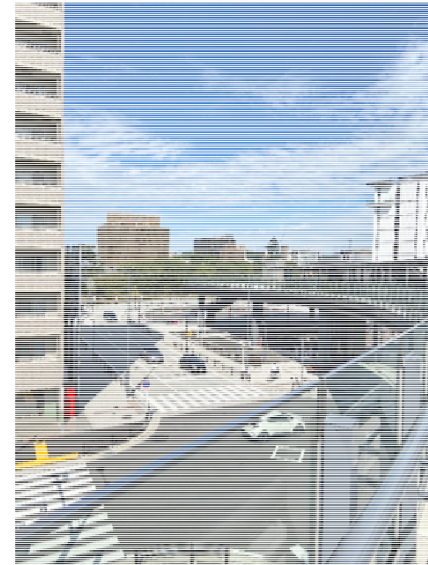
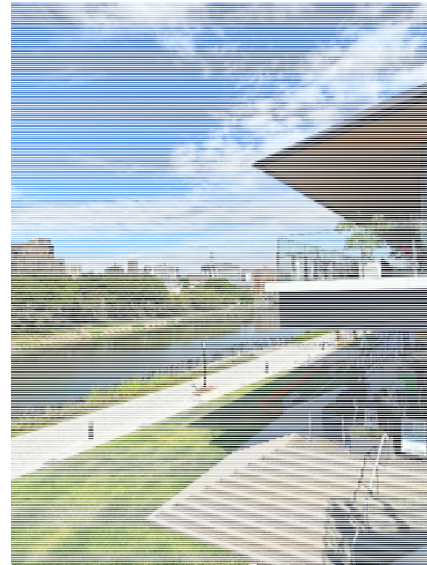




●美濃加茂地区かわまちづくり（リバーポートパーク美濃加茂）



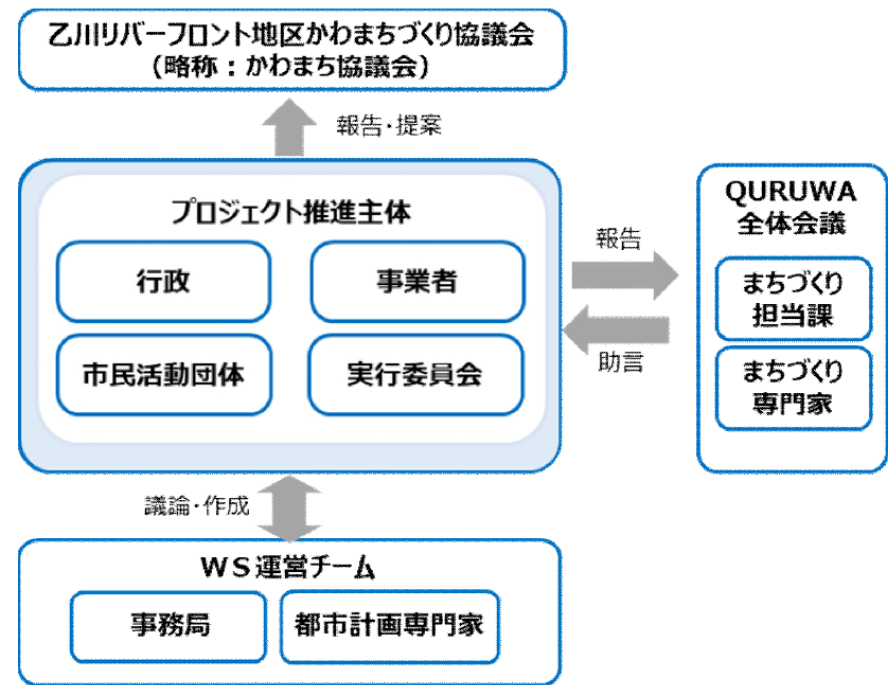
●岡崎市・乙川かわまちづくり、公民連携プロジェクト（QURUWA戦略）



プロジェクト例

■プロジェクト一覧			
<p>1) 乙川かわまちづくり事業のかかわちづくりの整備</p> <p>乙川QURUWAフロントの事業者によるまちづくり</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>2) 乙川かわまちづくり事業の持続性向上</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>3) PPP活用拠点形成事業（本町の城跡地）</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>4) PPP活用公園事業（かしの緑地）</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>
<p>5) 北東地区事業</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>6) 乙川かわまちづくり事業の持続性向上</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>7) 「拠点・マキネット」開拓公園連携</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>8) 森緑地形成</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>
<p>9) 水上の安全・安心</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>10) 水辺調査のための乙川緑地の活用</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>11) 自転車ネットワーク構築</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>12) 舟屋事業</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>
<p>13) 水上アクティビティ</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>14) パークリン</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>15) 開拓祭の新しい</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>16) 歴史コラージュ連携</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>
<p>17) 「開拓」の魅力を再認識・次世代へ引き継ぐ取り組み</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>18) 乙川ナイトマーケット</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>19) 乙川がワ！ 星空観望イベント</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>20) HANDMADE SELECT MARKET</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>
<p>21) みんなのつながり</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>22) 暮らしの木質化プロジェクト</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>23) 地域連携・関係者の活用プロジェクト</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>	<p>24) 金魚花火の伝承</p> <p>●事業実施者 岡崎市、岡崎市</p>

検討体制イメージ

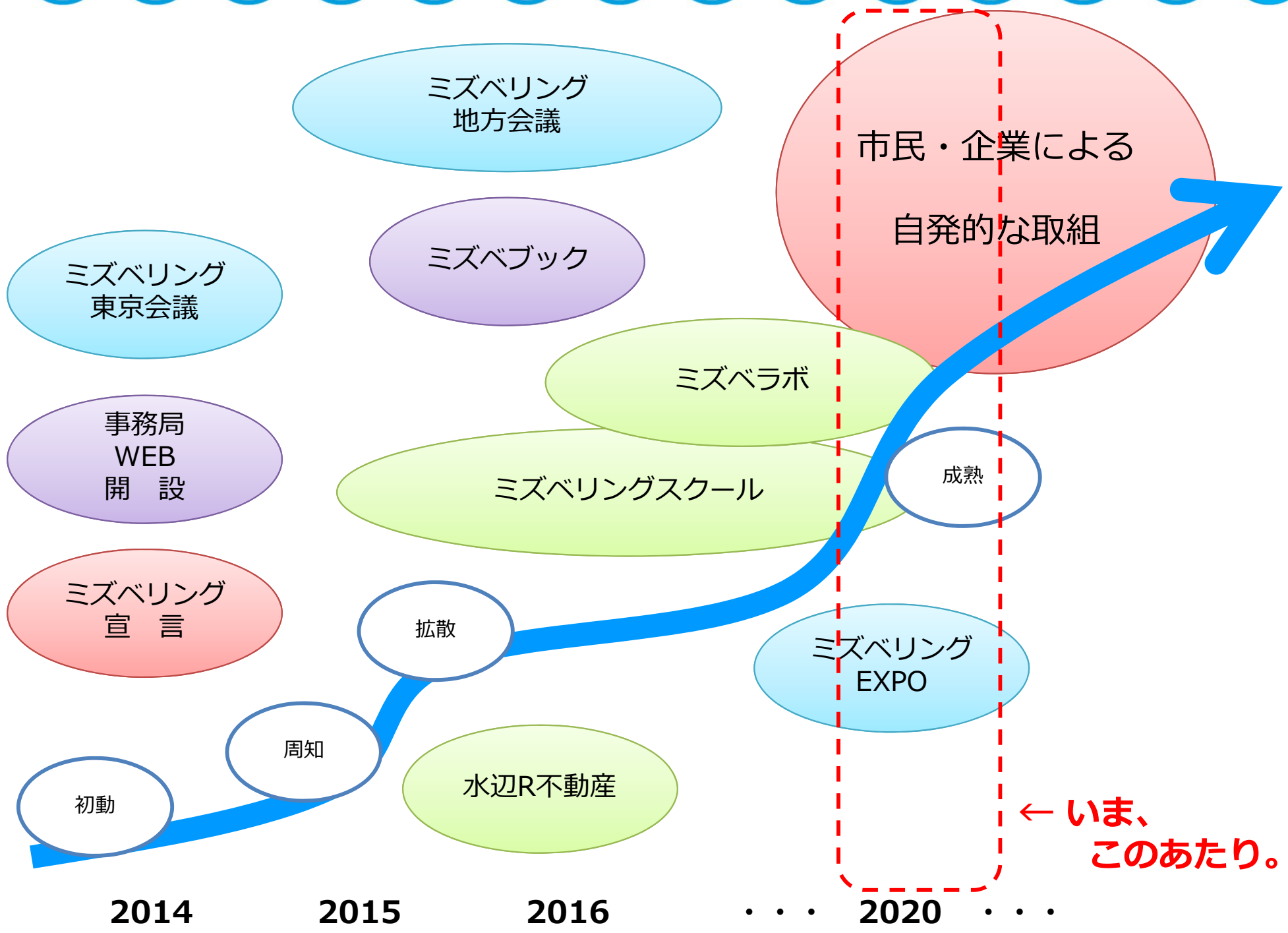


●多治見駅北広場「虎溪用水広場」

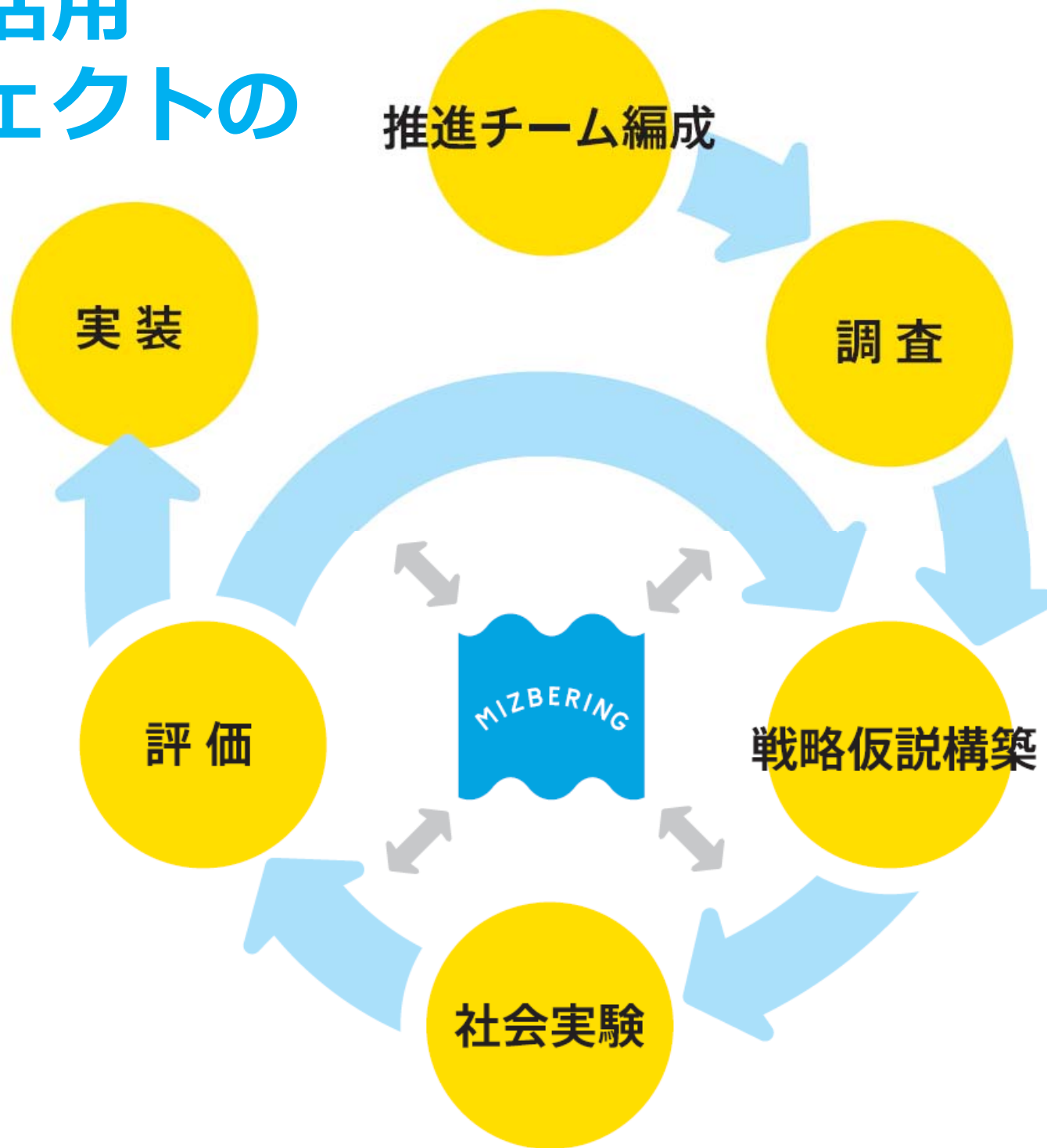


<ポイント>

- ・敷地・広場の所有者 → 多治見市
- ・管理・運営者 → 多治見まちづくり（株）
- ・運営形態 → 多治見市指定管理制度
- ・広場の特徴 → 水の流れがある（※土岐川から毎秒200ℓの水を循環）



水辺利活用 プロジェクトの 進め方



推進チーム編成

まず、みんなで水辺に集まって何かをやってみる。

まず知り合おう。互いにどんなことをやっている人なのかプレゼンしよう。そして、水辺への想いを語ろう。そんな中から、プロジェクトの芽が生まれ、関わりたいと思うメンバーが集まってくる。そのために、水辺で乾杯してみる、ボートに乗ってみる、ピクニックをしてみるなど簡単でいいので、アクションをしてみるのが手。ドラクエのチームのように、いくつかの異なったスキルや職能を持つキャラクターによるプロジェクト推進チームを編成しよう。

ミズベを語る仲間を探す

水辺を取り巻く、社会条件と自然条件、
そして人びとの声を知る。

該当する水辺に関わる法制度や歴史などの社会条件、洪水頻度や過去の水位などの治水条件、生き物や水質などの環境も含めた自然条件を把握しよう。また、もともと水辺で活動していたり、これから関わってくれる可能性がある人びとや組織、コミュニティを発掘しよう。人びとの声を拾うために、ミズベリング会議などいくつかのワークショップを行うことも有効。

実態を知る、調べる

水辺とまちのビジョンを描いてみる。
実現するための手法も考える。

地域の人びとやプロジェクトに関わる人びとの声を聞き、ある程度情報が集まってきた段階で、みんなの望む水辺の未来や、欲しい水辺のまちのイメージを一度ビジョンとして描いてみよう。この絵は、あくまでも仮説であるが、方向性を示すことによって、多くの人にイメージが共有され、より多様な人びとを巻き込み、フィードバックを得ることが可能になる。また、ビジョンを実現するための制度や財源などの手法も同時に考えておこう。

ビジョンを考える、共有する

調査

戦略仮説構築

社会実験

まずはできることから始めてみる。

多様な関係者を巻き込み、ビジョンを共有し、実現への気運をつくる。

机上の議論だけでなく、実現したい水辺のビジョンの一部を、小さいスケールでいいので、実際の河川空間や水辺で試してみよう。ポイントはまず簡単にできること、期間を区切って行うこと、効果を測定できることである。

これらは社会実験として行政も巻き込み官民連携で行うことが望ましい。このような社会実験を行うこと自体が、様々な人びとを巻き込み、ビジョンを知らしめ、実現へ向けた気運を社会につくるための、効果的な手段となる。

社会実験、試してみる

評価

フィードバックを得ることが、
プロジェクトを育てていく上で肥やしとなる。

社会実験やイベントなど、具体的なアクションの実行は、いわば、水面に投じる石。その波紋がどのように広がり、どのような反応があったのか、様々なステークホルダーからのリアクションを記録しよう。フィードバックからは、プロジェクトがどうすればうまく進むのか、何が課題となっているのか、プロジェクト推進者にとって、貴重な気づきをもたらされるはず。フィードバックを的確に得るためには、あらかじめ目的、評価項目を設定しておくことも有効である。

分析、評価

実装

運用自体がフィードバックの一部。
変化に対応しながら、プロジェクトの質を上げていこう。

ビジョン仮説づくり→社会条件→評価のサイクルを回す中で、精度が高まったプランは実装に向けて踏み出そう。運用にあたっては、できるだけ現場情報のフィードバックを反映させることが可能な体制を設定しておくことが重要である。運用自体の中から、新しいイノベーションや空間利用のアイデアが生まれる。それを活かすことができるプロジェクトマネジメントが求められる。

見直し、また実行

水辺利活用 プロジェクトの 進め方

